

# 香織倶楽部の面々

佐藤織彦



日々の暮らし、生活。人の過ごすところには体験が生まれ、物語となります。身近なところにも少し調べると講談になりそうな話がある。いろいろ転がっています。

まず一つ目は、白華城の戦い。はつかじょうと読みます。私の小学校の裏山に戦国時代に白華城という砦がありました。そこを治めていたのが安東氏。ある日城主に娘が生まれて祝の宴、そこへ川の対岸から豊島氏が攻め込みます。虚を突かれた安東氏は総崩れ。娘を抱えた娘ともども命を落とすのでした。悲劇を乗り越え数年後に城を奪還し、佐竹氏入城まで治めることとなります。

二つ目は秋田戦争。戊辰の役において、我が郷土の秋田藩は平田篤胤の国学が盛んで尊皇の士が多くいました。そんな中でも藩論は割れましまらずにいたところ、仙台藩より幕府方に付くよう使者が参りました。若き藩士達はその使者をなんと斬殺し橋のたもとに晒してしまうのです。さあ秋田藩はどうなるのか？ 他にも私が習っている大東流という武術の祖である福島出身の武田惣角翁の話や、部活でやっていった弓にまつわる話(三十三間堂の通し矢)など講談にしたい話はたくさんあります。

皆様の郷土、生活圏にはどのようなお話、歴史がありますでしょうか。調べてみると興味深い話がたくさん転がっているかもしれません。

新井織瑠



「泣きの浪曲、笑いの落語、怒りの講談。講談は庶民の怒りを語り載せて・・・」この言葉に惹かれ講談を習うことを決めました。反原発の事などを神田香織師匠が講談で語っておられるのをネットで知り、「こんな風に伝える方法があるんだ」と驚いたというのが理由です。たとえば治まりがいいのかもしれないが・・・。大きな理由はここ数年、記憶力の衰えが著しく、「講談は台本を下に置いて読んでも大丈夫なはずだから」と、思ったのです。が・・・、習いはじめてみると「やはり覚えて語る方が見栄えがいい」。今少し焦っています。

名前を「禿(とく)織」とさせてもらいました。「禿」といっても、私の頭に髪の毛がないからではありません。元々「禿」とは「頭髪を剃って、形は僧であって、半僧半俗の生活をしている人」意味です。鎌倉時代の親鸞という人は愚禿(ぐとく)と名告り、私はその800年後の弟子となります。元々、落語や浪曲・講談のはじまりは僧侶の節教節といわれています。私が講談を習うのは、先祖返りなのかもしれません。気持ちだけは「現代の説教節を！」と65からの手習いです。よろしく御願いたします。

ただ漫画の中で描かれる「佐渡おけさ」の誕生とそれが継承されていく物語が、まるで民話が生まれ継承されていく成り立ちそのものように、そこに魅力を感じました。今回の私の加えたアレンジで、佐渡の金山の話をおよそとだけ加えました。台本は昨年完成しており、私の書き加えた内容とは重なりませんが、その後、佐渡の金山が政治問題になったのには驚きました。それはさておき「おけさのひょう六」。原作漫画は大面白いです。では今回の私の発表でその魅力がうまく伝わるだろうか？それが成功しているかどうか。ぜひ皆様のご感想をお聞かせください。

2年間の潜伏期間を経て2022年4月29日、ついに「那須与一」の物語に親しみを感じていました。と見えてきたような嘘をつき、「ですね？本日は「見えてきたよう」に語れば、と思います。それにしても、この2年の間に世界はすっかり様変わりしてしまいました。マスクなしで人と会えた日々が本当に遠くなっています。

「泣きの浪曲、笑いの落語、怒りの講談。講談は庶民の怒りを語り載せて・・・」この言葉に惹かれ講談を習うことを決めました。反原発の事などを神田香織師匠が講談で語っておられるのをネットで知り、「こんな風に伝える方法があるんだ」と驚いたというのが理由です。たとえば治まりがいいのかもしれないが・・・。大きな理由はここ数年、記憶力の衰えが著しく、「講談は台本を下に置いて読んでも大丈夫なはずだから」と、思ったのです。が・・・、習いはじめてみると「やはり覚えて語る方が見栄えがいい」。今少し焦っています。

「泣きの浪曲、笑いの落語、怒りの講談。講談は庶民の怒りを語り載せて・・・」この言葉に惹かれ講談を習うことを決めました。反原発の事などを神田香織師匠が講談で語っておられるのをネットで知り、「こんな風に伝える方法があるんだ」と驚いたというのが理由です。たとえば治まりがいいのかもしれないが・・・。大きな理由はここ数年、記憶力の衰えが著しく、「講談は台本を下に置いて読んでも大丈夫なはずだから」と、思ったのです。が・・・、習いはじめてみると「やはり覚えて語る方が見栄えがいい」。今少し焦っています。

「泣きの浪曲、笑いの落語、怒りの講談。講談は庶民の怒りを語り載せて・・・」この言葉に惹かれ講談を習うことを決めました。反原発の事などを神田香織師匠が講談で語っておられるのをネットで知り、「こんな風に伝える方法があるんだ」と驚いたというのが理由です。たとえば治まりがいいのかもしれないが・・・。大きな理由はここ数年、記憶力の衰えが著しく、「講談は台本を下に置いて読んでも大丈夫なはずだから」と、思ったのです。が・・・、習いはじめてみると「やはり覚えて語る方が見栄えがいい」。今少し焦っています。

「泣きの浪曲、笑いの落語、怒りの講談。講談は庶民の怒りを語り載せて・・・」この言葉に惹かれ講談を習うことを決めました。反原発の事などを神田香織師匠が講談で語っておられるのをネットで知り、「こんな風に伝える方法があるんだ」と驚いたというのが理由です。たとえば治まりがいいのかもしれないが・・・。大きな理由はここ数年、記憶力の衰えが著しく、「講談は台本を下に置いて読んでも大丈夫なはずだから」と、思ったのです。が・・・、習いはじめてみると「やはり覚えて語る方が見栄えがいい」。今少し焦っています。

新井織瑠

「泣きの浪曲、笑いの落語、怒りの講談。講談は庶民の怒りを語り載せて・・・」この言葉に惹かれ講談を習うことを決めました。反原発の事などを神田香織師匠が講談で語っておられるのをネットで知り、「こんな風に伝える方法があるんだ」と驚いたというのが理由です。たとえば治まりがいいのかもしれないが・・・。大きな理由はここ数年、記憶力の衰えが著しく、「講談は台本を下に置いて読んでも大丈夫なはずだから」と、思ったのです。が・・・、習いはじめてみると「やはり覚えて語る方が見栄えがいい」。今少し焦っています。

決まらないでいる時、神田香織先生の「2」後の生き抜く力を持って」という本に出会い、これだと思い、早速先生の了解を得て発表しました。演目は「東日本大震災と原発事故のてん末」です。ちょうどその時先生も聞きに来て下さり、せっかく良い内容なのに、語勢が無いのもったいない。練習すればもったいない内容になると「神田香織サロン」に誘って下さったのです。師弟関係なんて難しくいやだなとなかなか決心がつかせませんでした。たまたま、またお会いする機会があり、再度のお声がけがあり、「行きます」ということになりました。次第です。と書くカッコいいですが、本当は、練習後の二次会が楽しいから。

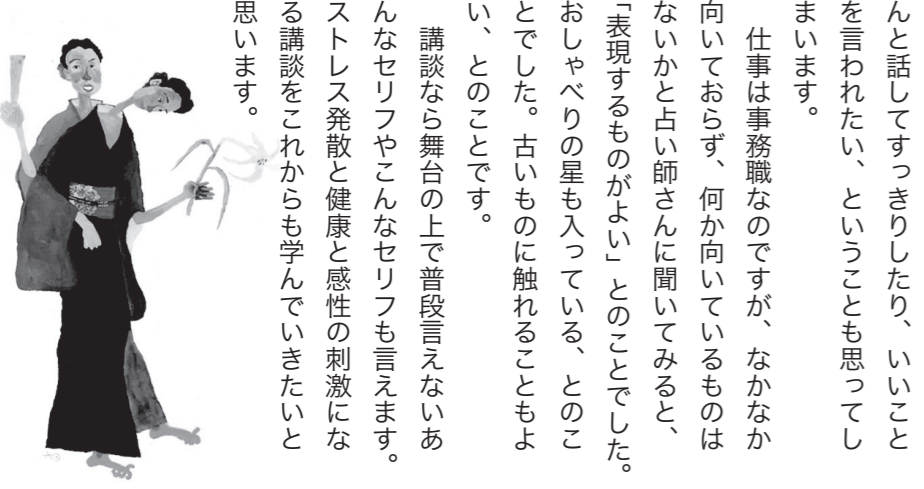


リモートで育つ感覚は？ コロナ禍の中で「不要不急の外出は控えるように」とされ、訳が分からないまま「スペイン風邪の再来」と構えて何ヶ月かを暮らした。救いは「外出」さえしなければ、病気は移らないということだった。機械不得手の私が、リモート映像にこんなに早く親しむなんて、コロナ禍のおかげだ。

母(昨年亡くしたが)の施設生活の様子がラインで送られてきた時は、言葉で示されるだけでは感じられない安心感があった。ずっと会えなかった子ども(「思い立って始めようと思った時がその人の年齢。何事も早い遅いはない。)(萩原葉子)「年を重ねただけで人は老いを失う時に精神はしぼむ。たとえ八十歳、九十歳でも、世の中の不条理と闘う気力がある人は十代、二十代と変わらぬ若者である」(サミュエル・ウルマン)を言われた、ということも思っています。

仕事は事務職なのですが、なかなか向いておらず、何か向いているものはないかと占い師さんに聞いてみると、「表現するものがよい」とのことでした。おしゃべりの星も入っている、とのことでした。古いものに触れることもよい、とのことでした。

講談なら舞台上で普段言えないあんなセリフやこんなセリフも言えます。ストレス発散と健康と感性の刺激になる講談をこれからも学んでいきたいと思えます。



佐藤織彦

日々の暮らし、生活。人の過ごすところには体験が生まれ、物語となります。身近なところにも少し調べると講談になりそうな話がある。いろいろ転がっています。

まず一つ目は、白華城の戦い。はつかじょうと読みます。私の小学校の裏山に戦国時代に白華城という砦がありました。そこを治めていたのが安東氏。ある日城主に娘が生まれて祝の宴、そこへ川の対岸から豊島氏が攻め込みます。虚を突かれた安東氏は総崩れ。娘を抱えた娘ともども命を落とすのでした。悲劇を乗り越え数年後に城を奪還し、佐竹氏入城まで治めることとなります。

二つ目は秋田戦争。戊辰の役において、我が郷土の秋田藩は平田篤胤の国学が盛んで尊皇の士が多くいました。そんな中でも藩論は割れましまらずにいたところ、仙台藩より幕府方に付くよう使者が参りました。若き藩士達はその使者をなんと斬殺し橋のたもとに晒してしまうのです。さあ秋田藩はどうなるのか？ 他にも私が習っている大東流という武術の祖である福島出身の武田惣角翁の話や、部活でやっていった弓にまつわる話(三十三間堂の通し矢)など講談にしたい話はたくさんあります。

もや孫の元気な映像が送られて会話ができて、電話では味わえない喜びになった。仕事の一部はZoomでするようになり、遠隔地に行かなくて済む有り難さを感じた。でも、肌感覚というか、臨場感というか、やっぱり物足りない。孫には会いたくなって、ちよつと下火の頃に即新幹線に乗って出かけてしまった。今の新人社員は歓迎会もなく、昼休みの雑談もなく、それで職場に馴染めるのだろうか、コミュニケーションはとれるのだろうか、と無用な心配をしてしまう。今までは違う感性に失われるものと育つものがあるのだろう。丁度ラジオや映画やテレビが出てきた時に、前の世代の人たちが私達を心配したのもこんな感覚だったんだろうか。趣味の一つとして親しんできた講談だが、本や舞台しかない時代には、芸能として、さらには情報源として、皆を大いに楽しませたのだろう、と思いを馳せながら、今日は演台の前に座る。

加藤織勝



今回の発表会では「おけさのひょう六」おけさ節由来」という演目にチャレンジします。これは「鉄腕アトム」などで有名な漫画家、手塚治虫が1974年に発表した「おけさのひょう六」を原作として、私なりにアレンジを加えたものです。

この漫画は佐渡おけさ誕生の由来を描いた「創作民話」と題された一篇です。あくまで「創作」ですので、実際の佐渡おけさの由来で



小武禿織



「泣きの浪曲、笑いの落語、怒りの講談。講談は庶民の怒りを語り載せて・・・」この言葉に惹かれ講談を習うことを決めました。反原発の事などを神田香織師匠が講談で語っておられるのをネットで知り、「こんな風に伝える方法があるんだ」と驚いたというのが理由です。たとえば治まりがいいのかもしれないが・・・。大きな理由はここ数年、記憶力の衰えが著しく、「講談は台本を下に置いて読んでも大丈夫なはずだから」と、思ったのです。が・・・、習いはじめてみると「やはり覚えて語る方が見栄えがいい」。今少し焦っています。

名前を「禿(とく)織」とさせてもらいました。「禿」といっても、私の頭に髪の毛がないからではありません。元々「禿」とは「頭髪を剃って、形は僧であって、半僧半俗の生活をしている人」意味です。鎌倉時代の親鸞という人は愚禿(ぐとく)と名告り、私はその800年後の弟子となります。元々、落語や浪曲・講談のはじまりは僧侶の節教節といわれています。私が講談を習うのは、先祖返りなのかもしれません。気持ちだけは「現代の説教節を！」と65からの手習いです。よろしく御願いたします。

ただ漫画の中で描かれる「佐渡おけさ」の誕生とそれが継承されていく物語が、まるで民話が生まれ継承されていく成り立ちそのものように、そこに魅力を感じました。今回の私の加えたアレンジで、佐渡の金山の話をおよそとだけ加えました。台本は昨年完成しており、私の書き加えた内容とは重なりませんが、その後、佐渡の金山が政治問題になったのには驚きました。それはさておき「おけさのひょう六」。原作漫画は大面白いです。では今回の私の発表でその魅力がうまく伝わるだろうか？それが成功しているかどうか。ぜひ皆様のご感想をお聞かせください。

2年間の潜伏期間を経て2022年4月29日、ついに「那須与一」の物語に親しみを感じていました。と見えてきたような嘘をつき、「ですね？本日は「見えてきたよう」に語れば、と思います。それにしても、この2年の間に世界はすっかり様変わりしてしまいました。マスクなしで人と会えた日々が本当に遠くなっています。

「泣きの浪曲、笑いの落語、怒りの講談。講談は庶民の怒りを語り載せて・・・」この言葉に惹かれ講談を習うことを決めました。反原発の事などを神田香織師匠が講談で語っておられるのをネットで知り、「こんな風に伝える方法があるんだ」と驚いたというのが理由です。たとえば治まりがいいのかもしれないが・・・。大きな理由はここ数年、記憶力の衰えが著しく、「講談は台本を下に置いて読んでも大丈夫なはずだから」と、思ったのです。が・・・、習いはじめてみると「やはり覚えて語る方が見栄えがいい」。今少し焦っています。

「泣きの浪曲、笑いの落語、怒りの講談。講談は庶民の怒りを語り載せて・・・」この言葉に惹かれ講談を習うことを決めました。反原発の事などを神田香織師匠が講談で語っておられるのをネットで知り、「こんな風に伝える方法があるんだ」と驚いたというのが理由です。たとえば治まりがいいのかもしれないが・・・。大きな理由はここ数年、記憶力の衰えが著しく、「講談は台本を下に置いて読んでも大丈夫なはずだから」と、思ったのです。が・・・、習いはじめてみると「やはり覚えて語る方が見栄えがいい」。今少し焦っています。

「泣きの浪曲、笑いの落語、怒りの講談。講談は庶民の怒りを語り載せて・・・」この言葉に惹かれ講談を習うことを決めました。反原発の事などを神田香織師匠が講談で語っておられるのをネットで知り、「こんな風に伝える方法があるんだ」と驚いたというのが理由です。たとえば治まりがいいのかもしれないが・・・。大きな理由はここ数年、記憶力の衰えが著しく、「講談は台本を下に置いて読んでも大丈夫なはずだから」と、思ったのです。が・・・、習いはじめてみると「やはり覚えて語る方が見栄えがいい」。今少し焦っています。

「泣きの浪曲、笑いの落語、怒りの講談。講談は庶民の怒りを語り載せて・・・」この言葉に惹かれ講談を習うことを決めました。反原発の事などを神田香織師匠が講談で語っておられるのをネットで知り、「こんな風に伝える方法があるんだ」と驚いたというのが理由です。たとえば治まりがいいのかもしれないが・・・。大きな理由はここ数年、記憶力の衰えが著しく、「講談は台本を下に置いて読んでも大丈夫なはずだから」と、思ったのです。が・・・、習いはじめてみると「やはり覚えて語る方が見栄えがいい」。今少し焦っています。

新井織瑠

「泣きの浪曲、笑いの落語、怒りの講談。講談は庶民の怒りを語り載せて・・・」この言葉に惹かれ講談を習うことを決めました。反原発の事などを神田香織師匠が講談で語っておられるのをネットで知り、「こんな風に伝える方法があるんだ」と驚いたというのが理由です。たとえば治まりがいいのかもしれないが・・・。大きな理由はここ数年、記憶力の衰えが著しく、「講談は台本を下に置いて読んでも大丈夫なはずだから」と、思ったのです。が・・・、習いはじめてみると「やはり覚えて語る方が見栄えがいい」。今少し焦っています。

決まらないでいる時、神田香織先生の「2」後の生き抜く力を持って」という本に出会い、これだと思い、早速先生の了解を得て発表しました。演目は「東日本大震災と原発事故のてん末」です。ちょうどその時先生も聞きに来て下さり、せっかく良い内容なのに、語勢が無いのもったいない。練習すればもったいない内容になると「神田香織サロン」に誘って下さったのです。師弟関係なんて難しくいやだなとなかなか決心がつかせませんでした。たまたま、またお会いする機会があり、再度のお声がけがあり、「行きます」ということになりました。次第です。と書くカッコいいですが、本当は、練習後の二次会が楽しいから。

救いは「外出」さえしなければ、病気は移らないということだった。機械不得手の私が、リモート映像にこんなに早く親しむなんて、コロナ禍のおかげだ。

母(昨年亡くしたが)の施設生活の様子がラインで送られてきた時は、言葉で示されるだけでは感じられない安心感があった。ずっと会えなかった子ども(「思い立って始めようと思った時がその人の年齢。何事も早い遅いはない。)(萩原葉子)「年を重ねただけで人は老いを失う時に精神はしぼむ。たとえ八十歳、九十歳でも、世の中の不条理と闘う気力がある人は十代、二十代と変わらぬ若者である」(サミュエル・ウルマン)を言われた、ということも思っています。

仕事は事務職なのですが、なかなか向いておらず、何か向いているものはないかと占い師さんに聞いてみると、「表現するものがよい」とのことでした。おしゃべりの星も入っている、とのことでした。古いものに触れることもよい、とのことでした。

講談なら舞台上で普段言えないあんなセリフやこんなセリフも言えます。ストレス発散と健康と感性の刺激になる講談をこれからも学んでいきたいと思えます。